

ラブ  
LOVE

トキオ



# LOVE

LOVE は まあるい

LOVE は あかるい

LOVE は あまい

LOVE は あたたかい

ときどきドキドキ  
とがってチクチク  
痛がりやさん おはいんなさいな  
ころんと回って  
やがて  
まんまる

まあるい LOVE

あかるい LOVE

あたたかい LOVE

君への LOVE

LOVE は 君

LOVE は 僕

ときどきドキドキ  
君としたいなあ

## ラブランコ

---

君とブラブラ  
公園でブラブラ  
通りでブラブラ  
お店でブラブラ

かわいいものをみつけたよ  
やさしいものをみつけたよ  
やわらかいものをみつけたよ  
ステキ時間をみつけたよ

君とブラブラ  
いつもブラブラ  
ラブの前にブラブラ  
ラブラブの後にブラブラ

愛したいのか  
愛されたいのか  
よく分からない  
どっちがいいかなんて  
決められやしない

でもね  
愛される努力はできても  
愛する努力はできないんだ  
それは  
自然とわきおこる内なる奇跡

いつだって  
愛したいなら愛するがいいさ

だってね  
愛はいつだって  
ふりむきはしないのだから

真夏の夜の夢  
僕らは湖畔で  
愛の濃度を競いあう

## Ourselves

---

たっぷりと水分を含んだ空気  
その  
ひどく狭く暗い部屋の中で  
しだいにあらくなる息を吐き出し  
君がつきつけた愛を  
僕は  
受け入れようと努力した

君は無口で  
僕がひきちぎってしまった言葉を  
覆いきれなくなると  
やがて闇の中に沈みこもうと  
もがいた

あてどなくくり返される動作  
永遠にもほど近い時間  
運命とは切り離された空間

明日への希望も  
昨日への憧れも  
今日の恐れも  
いらない

君の中の僕を掘りおこし  
僕の中の君を埋めよう

それが永遠となるまで

# リアルラブ

---

君はリアル  
僕のリアル

「本気かい？」  
出て行くなんて

「正気かい？」  
出て行くなんて

それならほら  
これを持っていくがいいさ

できたてのココロの残骸  
長年かけて作り上げた  
できたてのココロの残骸  
壊した瞬間から腐っていくんだ

この素晴らしき愛の最後に  
僕が夢見るのは

それほどステキなものじゃないぜ？

## Art of LOVE

---

水彩画のようなLOVE  
クレヨンで描いたLOVE  
油絵のLOVE

どんなLOVEが好きですか？  
どんなLOVEをしていますか？

抽象派？  
印象派？  
写実派？  
それとも  
シュール？

どんなLOVEでもご自由に

ときには  
はみ出したりしながら  
ね？

## 君とゆく未来

---

未来を君にあげるよ  
だから過去はいらない

未来を君にあげるよ  
だから今日はおやすみ

もう  
まだ見ぬ明日のために  
背伸びする必要なんてないから

今の想いをあたためて  
今日という日をつづけよう

やがてふたりのまんなかで  
あたためられたLOVEが  
君と僕とをすっかり  
つつみこんでしまうまで  
今を歩いていこう

未来を僕に出来ないかい？



## ある愛のカタチ

---

やさしいあなた  
昨日はゴメンね  
傷つけるつもりはなかったんだよね

やさしいあなた  
さっきはゴメンね  
怒らせるつもりはなかたんだよ

やさしいあなた  
いつもゴメンね  
あやまってばかりの私を  
いつもそうやって  
許してくれるんだね

やさしいあなた  
やさしいあなた  
あなたがいなくちゃダメなの

やさしいあなた  
やさしいあなた  
あなたがいなくちゃ私ダメなの

やさしいあなた  
でももう  
あなたを怒らせたりしない

もう決めたから  
そうして  
今日はひさしぶりに  
お買い物にでかけるの

その日、世界は

---

その日、世界は

世界の果てに寝っ転がって  
夜を見てる

さざめく星の儂い物語  
つまみぐいしながら  
すべてが無事に終わるその時まで

宇宙の果てに寝っ転がって  
君を見てる

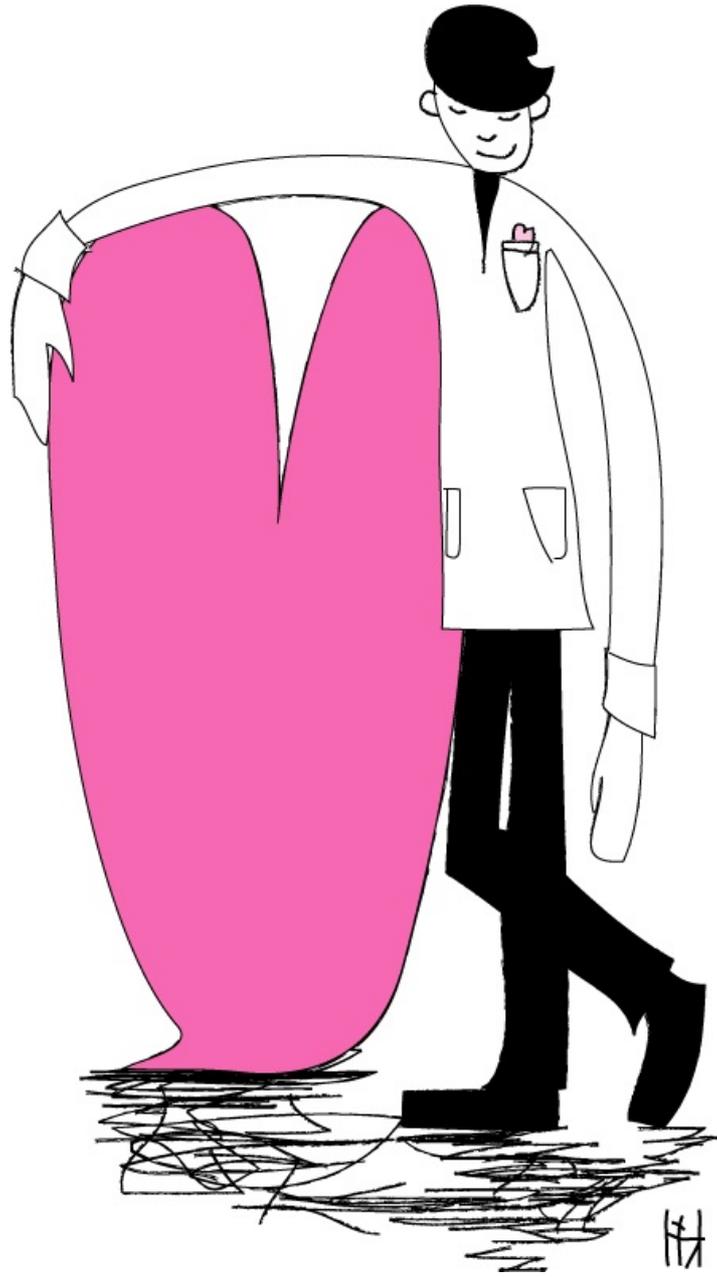
ほら  
なんだっけ？  
あれは

君に初めて口づけたときに生まれた惑星

ふるえながらのぼって  
やがて輝きを増していくと

見おろした  
大地にしみこんでいく命を  
すくい上げようとまたたくんだ

だから僕らもう少し  
このまま  
世界を見ていようか？



## 夜明けのレイン

---

傷ついたレイン  
壊れてしまった誰かのアンブレラ  
切ない気持ち  
にぎりしめ  
ふりかえったターミナル

みんな帰れたのかな？  
待つ人のもとへ

人気(ひとけ)のないバス停  
信号待ちしているタクシーのウインカー  
ぼんやりとした空気がゆれて  
見上げれば  
今にも泣き出しそうな空

行く場所がないのかい？  
ベンチの隅の黒猫に

たずねたのか  
たずねられたのか  
あくびする街の雨も  
予報通りに  
午後には止んでいた

明日は天気だといいなあ

## クロスワードラブ

---

「逢いたい」が言えなくて  
僕はその日を迎えた

「行かないで」が言えないで  
君はその日を迎えた

偶然のような毎日  
クロスワードパズルの日々  
すこしずつ  
でも確実にうめられていく  
スキマに  
そっとすべりこんで

僕らは出会った

僕に欠けていたモノを君が持っていたから  
君がほしがったモノを僕がもっていたから

必然に  
僕らは出会った

そうして  
すべての空白が埋めつくされるまで  
すべての意味が解き明かされるまで

愛は静かに答えを待っている

## Dead or Love

---

愛はつかのまのゲーム

勝つか負けるか

獲るか獲られるか

身代わりはいない

負けたらそれまでのサバイバル

嘘つきだって？

当然さ

だって僕は負けたくはないんだもの

僕には君が必要さ

君にとって僕が必要じゃないとしたって

僕には君が必要さ

だから

僕は勝たなきゃいけないんだ

どんなことをしてもね

## 夜の空

---

青い青い夜  
君とふたりで  
夜を見上げて  
子供のように笑った

解説者のいない夜空に  
物語をかさねて  
ふれあう距離  
月が恥ずかしがって  
雲間にその身を隠すと  
僕らの星が輝きはじめた

星たちの会話  
言葉のない会話  
ひそやかに流れだし  
青い青い夜  
ずいぶんとにぎやかそうだ

百年前にも同じように  
千年前にも同じように  
きっと  
ふたりは  
こうして  
夜を見上げていたんだ

青い青い夜  
君とふたりで  
このまま  
夜を見上げていたいなあ

## 月と夜のカラクリ時計

---

月をふくらませ  
屋根の上  
まんまる目玉を光らせた  
鈴の音が路地裏をぬけていくと  
伸びていく影は闇にとけ  
やがて  
いちめん  
夜のマントにつつまれた

君のためのラブソング  
口笛吹いて踊りだす  
夜のカラクリ時計  
誰も見てやしないのに  
ここへおいでと歌ってるんだ

追いかけるように逃げていく  
逃げるように追いかけていく  
月の裏側をのぞきこんだなら  
いっしょにいけるかい？  
夜明けまで  
月の陰りを数えながら

時の片道切符  
並べてみても  
戻っては来れないから

君と行きたい  
君と生きたい

この片道切符で  
いけるとこまで

空を見上げた

ボクはどこから来たのだろうか？と

ココデハナイドコカ

ココデハナイドコカ

声がするんだ

ボクは探さなければならない

ボクは見つけないといけない

ボクにだけ

ピッタリとあう

完璧に欠けた存在を

なぜこんなにも

キミとボクとは違うのだろうか？

ボクデハナイダレカ

ボクデハナイダレカ

笑っているよ

気がつかなければ幸せだったろうか

分からないことは不幸せだったろうか

ボクはほら

どこから見ても

完璧に欠けた存在

いらないなら捨ててしまえばいい

くだらないなら笑い飛ばせばいい

乾いているなら飲み干せばいい

まだ足りないのなら奪い取ればいい

そうして夜になる

そうして夜が明ける

そうして明日になる

そうして昨日になる

でもね

ボクはもう身動きもできない

キミをみつけた

パーフェクトスパイダー キミにとらえられ動けない  
パーフェクトスパイダー ボクはキミの影  
パーフェクトスパイダー キミにとらえられ動けない  
パーフェクトスパイダー キミはボクの鏡  
パーフェクトスパイダー ボクはキミの光

不完全なのはボクのほうさ  
とキミが言う  
マダハヤスギタンダ  
モウオソスギルンダ  
泣いているのかい？  
つらいのはイタミのせいなのか  
伝わるのはイタミだけなのか  
永遠に乾いていくだけのボクらは  
完璧に欠けたままの存在

パーフェクトスパイダー キミにとらえられ動けない  
パーフェクトスパイダー ボクはキミの影  
パーフェクトスパイダー キミにとらえられ動けない  
パーフェクトスパイダー キミはボクの鏡  
パーフェクトスパイダー ボクはキミの光

明るい未来を積み残して  
バスは走り始めた  
僕の中の君を見つけるために  
偽物のラバーブーツの底に  
へばりついてくる  
真っ黒な影を踏みにじりにして  
高速回転

正気か？  
狂気か？

君のために回る世界を左手に持ち  
僕は落としてしまったナイフをとろうと必至だった

バランスは崩されるために在るんだ  
光のために影が在るんだ  
今日のために明日が在るんだ

飛散するグラスを停止させたくて  
左腕を差し出したのに  
裏切られたのは

運命なのか？  
人生なのか？

僕は苦手なウィンクをして  
できるだけ正確に世界を切り取ろうとした

グラシヤス  
シニョール

アングルを変えよう  
いきすぎてしまった全てのスナップのために  
たがいちがいの段階を経て

上昇する螺旋を下りながら  
マフラーのようにからみついてくる  
腕をふりはらうとき

ねえ  
君にも見えただろ？  
君の中の僕は善人  
僕の中の僕は、、、？

## Rainy Days

---

そのとき

初めての雨が降った  
頬つたう冷めきった雫

その日

はじめてウソをついた  
生まれついでのパテン師のみたいに

うまく言えたはずなのにナゼか悲しくて  
見透かされてるだけだとは気づけやしなくて

「どこにいますか？」

せめてもう一度だけでも逢いたくて（逢えなくて）

乾いていく川底にただ沈んでいだけ

嗚呼

震えを隠すように夢中で走った  
かきむしるように手を伸ばした  
無くしたものをかき集めるように

「ここには無いよ」とは

言ってほしくなかったのに

「うまくできたでしょ？」

って自慢してたけど

ホントはうまくなんてなりたくなかった

「聞こえていますか？」

せめてもう一度だけでも逢いたくて（逢えなくて）

ひからびてく川の底にただ流れていだけ

嗚呼

「うまくできたでしょ？」

「よく似合うでしょう？」

ホントの自分を見失えるくらいに

「ほら見えるでしょう？」

せめてもう一度だけでも逢いたくて（逢えなくて）

乾いていく川底にただ沈んでいくだけ  
嗚呼

## ドライブ

---

プッポー

シューツ

「どこまでですか？」

分かってるくせに毎回聞きやがって  
そんな風に君は思うのだろうか？

いや、そんなはずはないさ

乗り込むと

きまって窓側の一番前の席に座って

本を読むでもなく

音楽を聴くでもない

ほんの少し微笑んで

走り去る風景を眺めているんだ

「発車しまーす」

山あいを抜け

田園を抜け

川を渡り

街へ

僕らに乗せたバスは進んでいく

僕らの大切な時間は進んでいく

「わたしバスが好き」

いつか君がつぶやいたセリフ

なんだか嬉しくなって

あぶなくバス停をひとつとばすところだった

でも  
なにかあったのかい？  
今日はなんだか落ち着かないみたい  
大好きな景色もうわの空なんだね

プシュー  
シュッシュー

短い旅の終わり

バス停に着くと  
すぐにかげだした君

「発車しまーす」

ああ  
好きな人ができたんだね  
窓越しにふたつの影を見送ると  
やがてバスは折り返し地点

つぎのドライブの始まりだ

## 愛の真実

---

なあ  
君がどんなリアリストだとしたって  
信じるしかないんだぜ？

科学か非科学か  
テレパシーかシンパシーか  
分からないけど

愛は現実

オカルトなんかじゃない  
疑うなんて愚かなことさ

これこそ真実の愛！  
だなんて  
言わないけれど

ほら  
僕を見る君の瞳  
まだ気づかぬふりをつづけるのかい？

いずれにしたって

愛は現実

信じるしかないのさ

## Deep Room

---

深い夜

君がかじったリンゴ  
ベッドサイドに転がって  
赤い色をにじませた

飲み干せなかったワイン  
こぼれるままに  
部屋中に満ちていく  
甘い香り

吸いながら  
吐き出しながら

収縮していく部屋の真ん中で  
君は部屋の四隅にまで  
その手足ををとどかせようと  
あがいた

僕の名前を呼んでいるのかい？  
とても聞きとりにくいんだ  
明日ではだめかい？  
とてもとても眠いんだ

満ちる月の下で  
沈んでいく夜  
音の消えた街中を  
問いかけは  
永遠に  
ぐるぐるとかけまわった

## 恋人達の理由

---

ありがとう僕の恋人達

通りすぎてしまった

あの日

僕は君を形作るに十分だったかい？

僕の手はもうとどかないけれど

役割を果たせただろうか？

それとも

もうとっくに忘れてしまったかい？

幾度も交わした言葉のない想いも

すっかり忘れてしまったのだろうか

そして

僕もそうした方がよいだろうか？

君が望むなら

僕は今でもそこへ行けるのに

きっと君は望みはしないんだろうなあ

ありがとう僕の恋人達

今でも僕を形作る

僕の恋人達

君が望むとしても

僕は忘れられそうにないや

月光

---

月光

神秘なる夜の頂（いただき）

どうか

還れますように

運命のつぶやき

愛されるようには愛せないから

求めるようには求められないから

影へ影へと逃げていく

月光

冷涼なる夜の理（ことわり）

いつか

出逢えますように

いつか

めぐり逢えますように

ときには目をとじたまた

月光

君を見てる

## ふたりごと

---

君を思うたび切なくなる  
君を知るたび分からなくなる

だからいつでも知らん顔  
素知らぬ素振りで知らん顔

どうか秘密を打ち明けたりしないで  
決して素顔を見せないでいて  
賭け事はあまり得意じゃないんだ

もちろん僕も気をつけるさ  
寝言にだって漏らさぬように  
明かりを消して  
輪郭が  
できるだけぼやけるように

ほら  
声が漏れてるぜ？  
ランプシェードをすりぬけて  
素顔が透けてるぜ

あれほど言ったっていうのに

君を思うたび切なくなる  
息もできないほど  
君を知るたび分からなくなる  
何も見えないほど

君を見つめるたび

## LOVE

<http://p.booklog.jp/book/31311>

著者：トキオ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/tokion/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/31311>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/31311>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社paperboy&co.